

(11)Publication number : 2003-076797
(43)Date of publication of application : 14.03.2003

(21)Application number : 2001-269658 (71)Applicant : FEELER:KK
(22)Date of filing : 06.09.2001 (72)Inventor : YOSHIDA KOICHI

(57)Abstract:

Figure 1 is a flowchart comparing an existing method (既存方法) and a proposed method (提案方法) for data processing. The diagram is divided into two main sections by a vertical line.

Existing Method (既存方法):

- Input Data (入力データ):** The process starts with input data.
- Data Processing (データ処理):** The input data is processed.
- Output Data (出力データ):** The result of the processing is output data.

Proposed Method (提案方法):

- Data Processing (データ処理):** The process starts with data processing.
- Data Analysis (データ解析):** The processed data is analyzed.
- Data Output (データ出力):** The result of the analysis is output data.

The diagram illustrates the differences in the flow of data between the two methods, highlighting the additional analysis step in the proposed method.

[Date of request for examination]
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-76797
(P2003-76797A)

(43) 公開日 平成15年3月14日 (2003.3.14)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ターマコード* (参考)
G 0 6 F 17/60 11/36	1 3 2	G 0 6 F 17/60 9/06	1 3 2 5 B 0 7 6 6 2 0 R

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2001-269658 (P2001-269658)

(22) 出願日 平成13年9月6日 (2001.9.6)

(71) 出願人 500238251

株式会社フィラー

大阪市北区西天満3丁目11番11号

(72) 発明者 吉田 皓一

大阪府大阪市北区西天満3丁目11番11号

株式会社フィラー内

(74) 代理人 100105784

弁理士 橋 和之

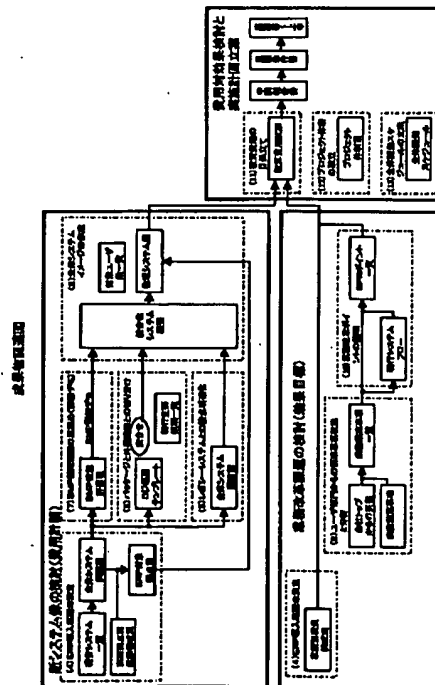
Fターム (参考) 5B076 EC10

(54) 【発明の名称】 統合業務パッケージ導入支援システム

(57) 【要約】

【課題】 ERPパッケージを導入するに当たっての事前検討・評価フェーズにおいて、作成する実施計画の精度向上および検討・評価期間の短縮を実現する。

【解決手段】 ERPパッケージの導入に当たって事前に検討および評価すべき内容を表した複数のテンプレートをあらかじめ用意し、これらのテンプレートを任意に組合せて利用し、必要に応じてカスタマイズすることによって実施計画を作成するようにすることにより、ERPパッケージ導入における事前検討・評価フェーズに対して明確な手順および成果物をテンプレートにより提示し、属人性を排除して、実施計画精度の向上および検討・評価期間の短縮を実現できるようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 統合業務パッケージ・ソフトウェアの導入に当たって事前に検討および評価すべき内容を表した複数のテンプレートを記憶するテンプレート記憶手段と、

上記テンプレート記憶手段から読み出して使用するテンプレートを選択するための情報入力操作を受け付けるテンプレート選択手段と、

上記テンプレート選択手段により選択された個々のテンプレートをカスタマイズするための情報入力操作を受け付けるカスタマイズ手段とを備えたことを特徴とする統合業務パッケージ導入支援システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、統合業務パッケージ導入支援システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、ERP (Enterprise Resource Planning: 統合業務) パッケージ・ソフトウェア (以下、ERPパッケージと略す) の開発が盛んであり、当該ERPパッケージを利用したERPシステムの構築も盛んに行われている。

【0003】現在、ERPパッケージとして様々なものが提供されているが、それらは仕様や機能などが異なっている。したがって、ERPパッケージを導入してERPシステムを構築する場合には、どのERPパッケージをどのように使うのか、どのような形で導入すれば良いのかなどについて、ERPパッケージを実際に導入する前に十分な検討および評価を行う必要がある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来、ERPパッケージの導入に伴う事前検討・評価フェーズの作業は、システムエンジニアなどの人手によって行っており、個人のノウハウに依存するところが多かった。すなわち、具体的な作業内容や成果物内容が属人的であり、検討者自身も試行錯誤しながら作業を進めていた。

【0005】そのため、担当する人によって、ERPパッケージ導入の実施計画の精度や、検討および評価に要する時間に差が生じることが多かった。殆どのケースでは、この事前検討・評価フェーズ自体で非常に多くのコストがかかっている。かつ、導入対象範囲・規模・費用などの実施計画が不明瞭なまま開発プロジェクトを立ち上げてしまうことが多い。そのため、費用の増大や、ERPシステム導入時期の遅延などの事態に陥るケースが多いという問題があった。

【0006】本発明は、このような問題を解決するために成されたものであり、ERPパッケージ導入における事前検討・評価フェーズに対して明確な手順および成果物を提示し、属人性を排除することにより、実施計画精度の向上および検討・評価期間の短縮を実現できるよう

にすることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の統合業務パッケージ導入支援システムは、統合業務パッケージ・ソフトウェアの導入に当たって事前に検討および評価すべき内容を表した複数のテンプレートを記憶するテンプレート記憶手段と、上記テンプレート記憶手段から読み出して使用するテンプレートを選択するための情報入力操作を受け付けるテンプレート選択手段と、上記テンプレート選択手段により選択された個々のテンプレートをカスタマイズするための情報入力操作を受け付けるカスタマイズ手段とを備えたことを特徴とする。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、本発明の一実施形態を図面に基いて説明する。本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムでは、ERPパッケージの導入手順に関する実施手順書と、事前検討・評価フェーズにおける成果物に関するテンプレート集とを電子的な情報として保持し、ユーザからの指示に応じてこれらを提供する。

【0009】ユーザは、使用するテンプレートの組合せや順番を決定し、個々のテンプレートを必要に応じてカスタマイズすることにより、1つのERPパッケージ導入実施計画 (導入拠点・対象業務などのERPパッケージ導入範囲計画、開発費用・導入ソフト・ハードなどの費用計画、開発プロジェクト体制・実施日程などの実施計画) を作成する。

【0010】上記実施手順書は、作業手順および成果物一覧、成果物関連図などを含む。また、上記テンプレート集は、以下のテンプレートを含む。

・全体システム機能一覧、業務帳票などシステム機能検討資料

・業務改革課題 (BPR: Business Process Reengineering) に関する診断表

・開発スケジュール、費用管理、実施体制など実施計画検討資料

・中間報告書、最終稟議書など上申資料

【0011】図1は、上記実施手順書に含まれる作業手順の例を示すタスク関連図である。図1に示すように、作業手順は、大きく (A) ~ (E) の5つのタスクグループに分けられる。最初のタスクグループ (A) では、検討プロジェクトの方向付けを行う。そして、この方向付けに従って、タスクグループ (B) で投資費用 (ERPシステム構築にかかる費用)、タスクグループ (C) で効果目標を割り出し、タスクグループ (D) で費用対効果として評価する。その後、タスクグループ (E) で事前検討・評価フェーズの最終成果物を作成し、稟議書等で上申する。

【0012】上記タスクグループ (A) ~ (E) では、具体的には以下のようなタスクを実行する。

タスクグループ (A) :

(1) ERPパッケージ導入に関する意識合わせ
(2) 中間報告書の形式検討
(3) BMP (Basic Multilingual Plane) の概略デモンストレーション
【0013】タスクグループ(B):
(4) ERPパッケージ導入範囲の決定
(5) ERPパッケージと外郭機能との切り分け
(6) レガシーシステムとの接点明確化
(7) BMP適用範囲の見極め(詳細デモンストレーション)
(8) 全体システムイメージの作成
【0014】タスクグループ(C):
(9) ユーザ部門からの要求事項収集と分析
(10) 業務改革ポイントの整理
【0015】タスクグループ(D):
(11) 投資費用の目処立て
(12) プロジェクト体制の確立
(13) 全体開発スケジュールの立案
【0016】タスクグループ(E):
(14) 中間報告書の作成
(15) パートナーへの見積条件書作成
(16) パートナー側での見積書作成
(17) 稟議書内容の作成
(18) 見積書作成
(19) 稟議書の作成
【0017】図2は、上述のタスク(1)～(19)に関連するユーザ事前準備事項、適用テンプレートおよび作成成果物の一覧を示す図である。タスク(1)で使用するERP導入のためのポイント集(T1)は、ERPパッケージ導入プロジェクトにおける管理ポイント、設計ポイントなどを解説したテンプレートである。タスク(2)(14)で使用する中間報告書テンプレート(T2)は、事前検討・評価フェーズでの検討成果に対する中間報告書のドキュメントサンプルを表したテンプレートである。
【0018】タスク(4)で使用する現行システム調査票(T3)は、ERPパッケージの導入範囲を検討するための現行業務システム調査票(機能棚卸表)を表したテンプレートである。タスク(4)で使用するERP適用の考え方(T4)は、テンプレート(T1)と兼用している。同じくタスク(4)で使用する全体システム関連図(T5)は、ERPパッケージの導入範囲を検討するための現行全体システムイメージ図のサンプルを表したテンプレートである。このイメージ図は、生産・販売・購買・経理などの全域をカバーしている。
【0019】タスク(5)で使用するロジ帳票テンプレート(T6)は、ロジスティクスにおける基幹業務で必須となる帳票サンプルを表したテンプレートであり、レイアウトサンプルと帳票内容解説書とを含む。タスク(5)～(8)で使用する統合化システム概要(T7)

は、新システムで必要とされる業務機能およびインタフェース種類などを一覧形式で整理したテンプレートである。

【0020】タスク(9)(10)で使用する業務改革のポイント(T8)は、BPR課題を洗い出すための業務チェックポイントの一覧を表したテンプレートである。タスク(7)で使用するBMP機能評価表(T9)は、BMP機能の適合性分析のための機能棚卸表を表したテンプレートである。タスク(11)で使用する費用管理テンプレート(T10)は、全体費用管理のための管理シートである。

【0021】タスク(12)で使用する開発体制の考え方(T11)は、事前検討・評価フェーズ以降の実開発プロジェクト立ち上げに向けての体制案のサンプルを表したテンプレートである。タスク(13)で使用する開発スケジュールテンプレート(T12)は、事前検討・評価フェーズ以降の実開発プロジェクトにおける日程計画案のサンプルを表したテンプレートである。同じくタスク(13)で使用するERP導入手順書(T13)は、事前検討・評価フェーズを含めたERPパッケージ導入の手順・成果物の標準を表したテンプレートである。

【0022】タスク(15)で使用する見積条件書テンプレート(T14)は、外部ベンダーに見積依頼する際の添付条件書のサンプルを表したテンプレートである。タスク(17)(19)で使用する稟議書テンプレート(T15)は、事前検討・評価フェーズの成果より最終稟議書を上申する際のドキュメントサンプルを表したテンプレートである。タスク(19)で使用する業務選定の考え方(T16)は、見積りを受理してベンダー評価および選定する際の検討ドキュメントサンプルを表したテンプレートである。

【0023】図3は、上記実施手順書に含まれる成果物関連図の例を示す図である。ここに示される成果物は、図1に示した各タスク(1)～(19)において、図2に示した各テンプレート(T1)～(T16)を用い、これらを必要に応じてカスタマイズすることによって生成されたものである。なお、この図3中には、図2中に示した作成成果物の他に、ユーザ事前準備物も含まれている。

【0024】各テンプレート(T1)～(T16)は、ERPパッケージを適用する業界における標準的な内容を示したものである。同じ業界であれば、業務の流れ、業務の関連、システムの関連、業務の改革ポイントなどは会社によってそれほど変わらないため、テンプレートとしてある程度は標準化することが可能である。しかし、ERPシステムの細かい機能や改革点等については、ERPシステムを構築する会社ごとに多少変わるので、その部分をカスタマイズによって作り変える。

【0025】すなわち、ある会社がERPパッケージを

導入してERPシステムを構築しようとする場合、本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムにより提供されるテンプレートを見て、そのまま使える部分についてはそのまま残し、変更を要する部分（この部分も大きな変更ではない）だけカスタマイズすれば、それだけでERPパッケージの導入実施計画を作成することができる。

【0026】従来は、ERPパッケージ導入の検討・評価を行う担当者と、ERPパッケージの導入を希望する会社との間で何度もヒアリングをし、試行錯誤を重ねてERPパッケージの導入実施計画を作らなければならなかった。これに対して、本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムを用いれば、当該システムによりあらかじめ用意されたテンプレートをたたき台として、違うところを変えるだけで、全体の関連図を簡単に作成することができる。

【0027】以上詳しく説明したように、本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムによれば、あらかじめ用意された標準的なテンプレートを利用してERPパッケージ導入の実実施計画を作成することができる。したがって、個人のノウハウによらず、誰が行っても一定以上の品質を有する実施計画を簡単に作成することができ、実施計画精度の向上、事前検討・評価フェーズ期間の短縮、コストの削減を図ることができる。

【0028】以上に説明した本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムは、実際にはコンピュータのCPUあるいはMPU、RAM、ROMなどを備えて構成され、RAMやROMに記憶されたプログラムが動作することによって実現できる。したがって、コンピュータが上記本実施形態の機能を果たすように動作させるプログラムを例えばCD-ROMのような記録媒体に記録し、コンピュータに読み込ませることによって実現できるものである。

【0029】上記プログラムを記録する記録媒体としては、CD-ROM以外に、フレキシブルディスク、ハードディスク、磁気テープ、光ディスク、光磁気ディスク、DVD、不揮発性メモ리카ード等を用いることがで

きる。また、上記プログラムをインターネット等のネットワークを介してコンピュータにダウンロードするようにしても良い。

【0030】また、コンピュータが供給されたプログラムを実行することにより上述の実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）あるいは他のアプリケーションソフト等と共同して上述の実施形態の機能が実現される場合や、供給されたプログラムの処理の全てあるいは一部がコンピュータの機能拡張ボードや機能拡張ユニットにより行われて上述の実施形態の機能が実現される場合も、かかるプログラムは本発明の実施形態に含まれる。

【0031】なお、上記実施形態は、本発明を実施するにあたっての具体化の一例を示したものに過ぎず、これによって本発明の技術的範囲が限定的に解釈されてはならない。すなわち、本発明はその精神、またはその主要な特徴から逸脱することなく、様々な形で実施することができる。

【0032】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、ERPパッケージを導入するにあたっての事前検討・評価フェーズにおいて、作成する実施計画の精度向上および検討・評価期間の短縮を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムで用いる実施手順書に含まれる作業手順の例を示すタスク関連図である。

【図2】本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムで用いるユーザ事前準備物、テンプレートおよび作成成果物の一覧を示す図である。

【図3】本実施形態の統合業務パッケージ導入支援システムで用いる成果物関連図の例を示す図である。

【符号の説明】

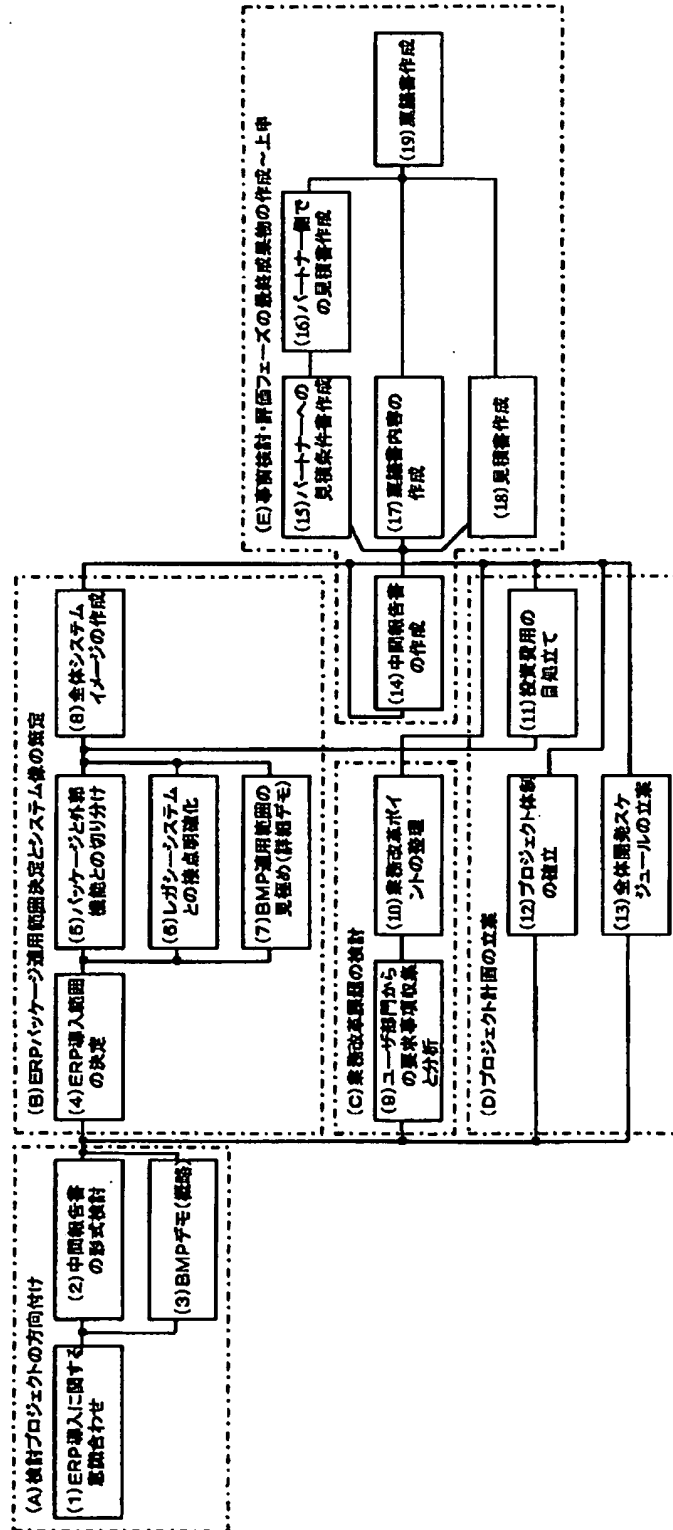
(A)～(E) タスクグループ

(1)～(19) タスク

(T1)～(T16) テンプレート

【図1】

タスク関連図



【図2】

タスクと関連成果物との関係

タスク	関連成果物		
	ユーザ事前準備	適用テンプレート	作成成果物
(1)ERPパッケージ導入に関する覚識合わせ		(T1)ERP導入のためのポイント集	ERP導入目的
(2)中間報告書の形式検討		(T2)中間報告書テンプレート	中間報告目次案
(3)BMPの概略デモ			
(4)ERPパッケージ導入範囲の決定	現行システム一覽 業務拠点図 組織構成図 業務別要員構成表	(T3)現行システム調査案 (T4)ERP適用の考え方 (T5)全体システム関連図	全体システム関連図 ERP対象拠点図 組織別業務分担一覽
(5)ERPパッケージと外郭機能との切り分け	現行主要帳票一覽	(T6)ロジック集テンプレート (T7)統合化システム概要	統合化システム概要
(6)レガシーシステムとの接点明確化		(T7)統合化システム概要	統合化システム概要
(7)BMP適用範囲の見極め(詳細デモ)		(T7)統合化システム概要 (T8)BMP機能評価表	BMP機能評価表
(8)全体システムイメージの作成	業務量・データ量調査	(T7)統合化システム概要	統合化システム概要 物理システム図 対象ユーザ数一覽
(9)ユーザ部門からの要求事項収集と分析	業務規定 会社トップからの要望 業務懸案事項	(T8)業務改革のポイント	業務懸案事項一覽
(10)業務改革ポイントの整理	現行システムフロー	(T8)業務改革のポイント	現行システムフロー BPRポイント一覽 組織別業務分担一覽 概要費用試算
(11)投資費用の目如立て	費用対効果試算	(T10)費用管理テンプレート (T11)開発体制の考え方	プロジェクト体制図
(12)プロジェクト体制の確立		(T12)開発スケジュールテンプレート (T13)ERP導入手順書	全体開発スケジュール
(13)全体開発スケジュールの立案		(T2)中間報告書テンプレート (T14)見積条件書テンプレート	中間報告書 見積条件書 パートナー側見積書 パートナー側見積書
(14)中間報告書の作成		(T15)見積書テンプレート	見積書 見積書
(15)パートナーへの見積条件書作成			
(16)パートナー側での見積書作成			
(17)見積書内容の作成			
(18)見積書作成			
(19)裏書書の作成		(T15)裏書書テンプレート (T16)業務選定の考え方	裏書書

【図3】

成果物関連図

